

美術学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育の理念・目的と求める学生像

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、高等学校までの学習を通して培った理解力と思考力、美術の表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- ・豊かな発想や色感を持ち、構成力、描写力などの基礎的な造形力を持つ人
- ・本学で学修を進めるために必要な基本的な知識、理解力を持つ人
- ・自らの問題意識にしたがって考え、客観的な視点を持つ意欲のある人
- ・自らの感覚や思考を、美術表現や言葉によって他者に伝える意欲のある人
- ・主体性を持って学ぶ姿勢を持ち、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- ・将来的なビジョンを持ち、自らの創造性を高める意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

美術学科の教育課程に適応するために必要な入学時の能力や適性等は以下の通りです。

（知識・技能）

- ①持続的な創作活動に必要な造形の知識・技術を修得するために、高等学校までに基礎的なデザインや彩色の表現力を身につける必要があります。
- ②造形の知識・技術を活用する上で必要となる様々な考え方を修得するために、高等学校までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。

（思考力・判断力・表現力）

- ③自己表現の方向性を探究するために、高等学校までに自身の表現や適性などについて考え、伝える力を身につける必要があります。

（主体性・多様性・協働性）

- ④明確な目標を持ちながら、自らの創造性を高めるために、主体性を持って学ぶ態度、多様な人々と協働して学ぶ態度が必要です。

入学後の学びに必要な能力や適性等と入学選抜における評価との対応

学力の3要素			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性		
入学後の学びに必要な能力や適性等			①	②	③	④	
入試区分、 検査等の内容 (配点)	学校推薦型選抜	一般推薦	調査書「芸術（美術）・国語・地理歴史・外国語（英語）の4教科の内、3教科の「学習成績の状況」、及び美術の優れた能力（出願要件）		○		
			実技試験（50点）	○		○	
			小論文（20点）			○	○
			面接（25点）			○	○
			調査書「指導上参考となる諸事項」（5点）				○
	一般選抜	前期	共通テスト（600点）		○	○	
			実技検査（900点）	○		○	
			学修計画書（100点）			○	○
			調査書「指導上参考となる諸事項」（20点）				○
		後期	共通テスト（300点）		○	○	
			実技検査（900点）	○		○	
			学修計画書（100点）			○	○
			調査書「指導上参考となる諸事項」（20点）				○
	留学生選抜 私費外国人		外国において、学校教育における12年の課程を修了またはこれに準ずる者（出願要件）		○	○	
			日本留学試験（日本語、総合科目）（10点）		○	○	
			実技（40点）	○		○	
小論文（20点）					○	○	
面接（30点）					○	○	

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

- 基礎的なデッサンや彩色の表現力を培うために、作品の数を積み重ねるだけでなく、質を高めるよう意識してください。
- モチーフとなる対象をしっかり観察し、形を正確に捉えることに加え、質感の表現などにも注意を払ってみてください。
- 制作を通じて、自身の興味・関心のあるものを探していくことを意識してください。
- 感性を高めるために、展覧会などを訪れて実物に触れることを意識してください。
- 作品や自身の表現について他者と対話する機会を設け、多様な価値観に触れてください。
- 実技に関わるだけでなく、美術以外の科目の学習にも意識的に取り組んでください。